
prologue

黒羽秋兎

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

prologue

【Nコード】

N6418Q

【作者名】

黒羽秋兎

【あらすじ】

世界を守る守護者の物語。

side:???

長かった。

此処まで、この時まで長かった。

あの使命を受けたときから

学んだすべては、お前を倒すために。
奪ったすべては、お前を屠るために。
失ったすべては、お前を殺す糧となし。

俺のすべては、お前を殺すためにささげた。

だから・・・

「お前を殺し、俺は世界を壊してみせる！！
俺は絶対にお前を許しはしない！」

そのとき・・・

ふと、目の前に浮かんた。

一つ、友の顔。

一つ、愛した者。

一つ、師とした者。

一つ、憎んだ者。

・・・。

・・・今思えば、みんな、俺の大事な人だっ

た

「お前はあいつらを・・・」

今、この世界に。

自分の生まれ育ったこの世界に・・・。

俺以外、もうヒトはいない。

「俺の友達、いや、全世界の人を一生贄かてとして、この世に
生まれたんだからなあああ！！！！！！」

そして、彼にとって宿敵の名を呼ぶ。
「この虫ヤロウー！！！！！！」

そして、最終決戦死合は始まった。

s i d e o u t .

そして、時は過ぎ・・・

彼は、すでに力は尽き、腕は折られ、脚に力は入らず、その翼はもう飛ぶことさえまならない。

だが、目の前には傷一つなくたたずむ宿敵BUGの姿。

たとえば、どんなに強力な力を得ても、^神BUGの前には、なす術がなかった。

side:???

「つたく、傷一つ付きやしない・・・。」

その手には武器も持てず、ただ腕という組織がくっついていただけとなっていた。

「^{エクスカリバー}約束された勝利の剣も、^{スター・ライト・プレイヤー}S・L・Bも通用しない・・・。
チート能力使ってるのに・・・あれは反則だろ・・・。
あんなのに勝てと言ったのか？世界の意思は？」

「

」

「ああ、おあいにくだが、お前の言いたいことは、全然理解できなくて、な。」

すまないが、こっちはもうガス欠だ。

もうこれしかないんでな、ゝゝ、悪く思っなよ。」

・ ・ ・ ・ ・

ああ・・・、

「我が命を力となし」

もう終わりか・・・

「ここに我が前に立つ敵を屠る一撃を！！」

前の奴等も同じ気持ちだったのかな？

「全力・全開！！」

次に選ばれたヤツ・・・

「断罪術式・禁忌」

自分の選択に後悔だけはするなよ。

そして・・・

「レムリア・インパクト!!!!」

世界を救って見せる!。

s i d e o u t .

彼は、自らの生命力と引き換えに、最後の一撃を放った。

『さよなら、みんな』

そう、対消滅が起こり音すらも聞こえないはずの世界で彼のちいさな言葉が聞こえた・・・。

彼の最後の一撃によって、B u Gは確かに消滅した。

だが、彼の思いと裏腹に・・・

その最後の攻撃によつて、世界は崩壊し、
ここに彼の戦つた世界は

潰えた。

side:???

あゝおもしろかった。

次はどう遊んであげようかな?、かな??

いらないゴミが多いし、ヤダ、ヤダ。
でも、あと一つ。

そう、あと一つ世界を潰せば、ボクの仕事も終わるんだ。

次の世界の人間は、どう足掻いてくれるのかな??

side out.

そして、世界は、ラスト・ホープ希望にすぎる。

（後書き）

なんとなく考えてたものです。

ちなみに大きく内容を改変しました。

一応プロローグということで、次に書こうとしている連載小説の過去話的な位置づけで作成しました。

でも、かなり内容もあやふやなので、時々改変するかもしれないのでスイマセン。

ちなみに、次の連載は自分の好きなジャンルの転生モノで、この短編の続きという形で行きたいと思ってます。

たぶん彼（短編主人公（名無し））は今後出番なしかな？

でも、やっぱり寂しいので、せめてなんらかの形で係わらせてあげたいです。

いまだに戦闘描写が苦手なのでお見苦しいと思いますが、暖かく見守ってください。

感想もお待ちしております。

まあ、最終的に見返して思うことはいえることは、文才がほしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6418q/>

prologue

2011年10月7日23時34分発行